

柿岡小学校ふるさと学習 卒業記念講演

『戦国時代の柿岡城－戦国大名佐竹氏とのかかわりを中心に－』

茨城県立歴史館 史料学芸部学芸課

資料調査専門員 飛田 英世

・内容

はじめに 茨城県立歴史館の紹介(特別展『鋼と色金』広報を含む)

1 戦国時代とは

- (1) 西暦1454年(567年前)の享徳の乱(きょうとくのらん)にはじまり、
西暦1590年(431年前)に小田原の北条氏がほろぶまで
- (2) 大名たちが、室町幕府を無視する(自分たちでものごとを決めていく)。
- (3) ほかの大名との間に問題が起こると、武力で解決する。
- (4) 大名たちは武力を使って土地(領地)を広げていく。
- (5) 身分の低い武士でも、力があれば、高い身分にあがれる。

* 有名な武将

山形→仙台：伊達政宗(だて まさむね)，

山梨：武田信玄(たけだ しんげん)，静岡：今川義元(いまがわ よしもと)

新潟：上杉謙信(うえすぎ けんしん)，愛知：徳川家康(とくがわ いえやす)

愛知：織田信長(おだ のぶなが)，広島：毛利元就(もうり もとなり) など

神奈川→北条早雲(ほうじょう そううん)

→氏綱(うじつな)→氏康(うじやす)→氏政(うじまさ)→氏直(うじなお)

※常陸に迫る。小田氏を味方にする。

2 戦国時代の常陸国

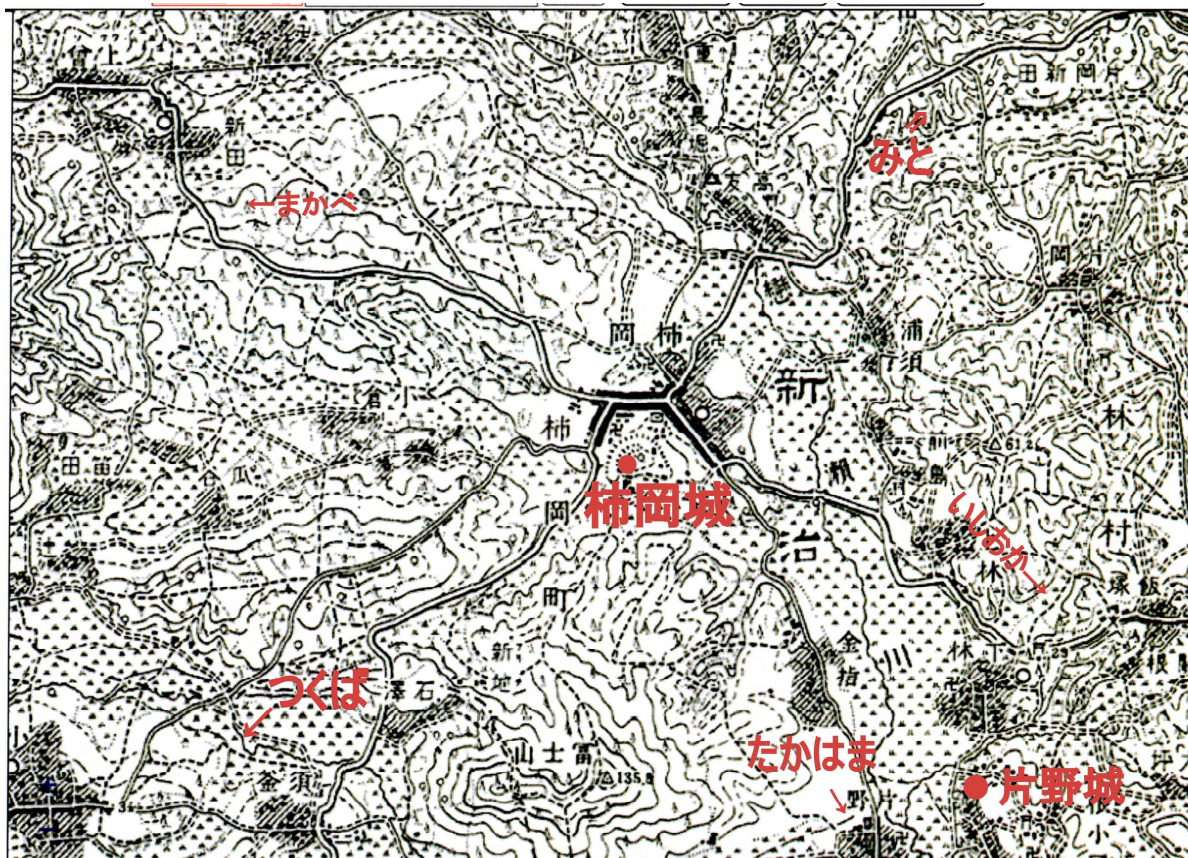
* 常陸国の領地分布図



戦国時代の終わりころ 南から小田原の北条氏が迫ってくる。つくばの 小田氏などは、北条氏の味方になっていく。佐竹氏は、それらと戦おうとする。

3 柿岡城の存在 つくばの小田氏の一族が築くといわれる。

* 柿岡城の古地図想像地図



常陸国(ひたちのくに)の、ほぼ真ん中

交通の拠点 水戸・真壁・つくば・石岡・高浜(霞ヶ浦方面)とを結ぶ道が集まっている。



佐竹氏は、北条氏が迫ってきたら、柿岡付近で撃退したいと考える。

そのためにも、北条氏の味方となった、つくばの小田氏を押さえる必要がある。

4 戦国大名佐竹氏と小田氏

佐竹氏は常陸太田市を拠点とした戦国大名。平安時代から続く有力者佐竹義重(さたけ よししげ)と、その子の義宣(よしのぶ)が有名。

小田氏は、つくば市(小田)を拠点とした戦国大名。鎌倉時代から続く有力者小田氏治(おだ うじはる)が有名。佐竹氏から離れ、小田原の北条氏の味方となる。

5 佐竹氏と柿岡城

太田資正(おおた すけまさ。別名：三楽斎(さんらくさい))→片野城に入る。
梶原政景(かじわら まさかげ)→柿岡城に入る。

二人は親子→政景は梶原の家をついだため、父と名字が違う。

太田氏は、もとは岩槻(埼玉県)の戦国武将。

北条氏によって岩槻を追われ、佐竹氏を頼る。

佐竹氏は引き受ける代わりに、小田氏との最前線に二人を配置する。

→佐竹氏としては、「引き受けたからは、佐竹のために頑張ってもらいたい」

↓

小田氏→佐竹氏によって小田城を追われる。一時的であるが、政景が小田城に入る。



小田城跡(つくば市)



太田資正の墓(片野城跡)

7 柿岡城城主 長倉義興 * 柿岡八幡神社, 善慶寺の建立

豊臣秀吉→小田原の北条氏をほろぼす。佐竹氏は常陸全体を統一する。

八郷に佐竹氏の家来がやってくる。

柿岡城→真壁房幹(まかべ ふさもと)

長倉義興(ながくら よしおき)。もとは、常陸大宮市長倉の武将

ぜんけいじ善慶寺も長倉から移ってくる(雪村の絵を伝える)。

国分盛重(こくぶ もりしげ)→伊達政宗の叔父

片野城→石塚義辰(いしつか よしとき)。もとは、城里町石塚の武将

じょうりこうじ浄瑠璃光寺・たいねいじ泰寧寺も石塚から移ってくる。

8 柿岡城 その後

江戸時代

佐竹氏は徳川家康によって、秋田に移される。

長倉氏・石塚氏も一緒に秋田に移る。

片野城→伊勢国(三重県)より、瀧川氏が入るが、二代で終わる。城も廃止される。

柿岡城→筑後国(福岡県)の立花直次(たちばな なおつぐ)が入る。

直次の兄である宗茂は、柳河藩を潰され浪人になるが、様々な努力によって再び柳河藩を復活させた。

稲葉正勝(いなば まさかつ)が入る。正勝の母は、徳川家光の乳母

かすがのつぼね
・春日局